

○保護者の方へ:必ずお読みください。

行政措置MR(麻しん・風しん混合ワクチン)予防接種について

この予防接種は、予防接種法に基づかない法定外の予防接種であり、沖縄市が独自で行う(行政措置による)予防接種となります。そのため、予防接種による健康被害が起きてても、予防接種法に基づく救済を受けることができません。

ただし、行政措置予防接種に起因して死亡または身体障害を被った場合には、沖縄市予防接種事故災害補償規則に基づく補償を受けることができます。そのほか独立行政法人医薬品医療機器総合機構に対し、疾病に対する医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金、葬祭料給付等の請求ができますが、その請求は健康被害を受けた本人(本人が死亡した場合にはその遺族)が直接行うこととなります。

上記の点を十分ご理解した上で、お子様への接種の判断をお願いいたします。

【対象者】2歳から18歳となる年度の末日までで定期予防接種未接種の方

【保護者が予防接種に同伴しない場合(13歳以上)】

通常、お子様の予防接種の実施にあたっては、保護者の同伴が必要ですが、13歳以上のお子様に対して実施する予防接種に関しては、予診票表面・裏面の保護者の自署欄に保護者が署名することにより、保護者の同伴がなくてもお子様おひとりで予防接種を受けることができます。保護者の方は、この説明書の記載事項を読み、理解し十分納得したうえで、接種をさせるかどうかの判断をお願いいたします。

1. 麻しん・風しんの症状について

◎ 麻しん

麻しん(はしか)は、麻しんウイルスの空気感染・飛沫感染・接触感染によって発症します。**非常に感染力が高く、約10~12日の無症状の時期(潜伏期間)の後、発症します。**

非常に症状が重く、麻しん(はしか)にかかった人のうち、1,000人に1人の割合で死亡することがあります。

また、麻しんにかかると数年から10数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という重い脳炎を発症することがあります。これは、麻しんにかかった者のうち約10万人に1人の割合で見られます。

◎ 風しん

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって発症します。潜伏期間は約14日~21日で、症状は比較的軽く、はっきりしない場合もあります。

予後は一般的に良好ですが、合併症をおこすこともあり、軽視できない病気です。子どもの場合、発しんも熱も3日程度で治ることが多いので「三日はしか」と呼ばれることがあります。しかし、大人になってからかかると子どもの時より重症化する傾向が見られます。

【先天性風疹症候群について】

風しんの免疫がない妊婦が妊娠早期に風しんに感染すると、風しんウイルスが胎児の発育に影響を及ぼし、先天性心疾患、白内障、難聴、網膜症などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風しん症候群といいます。

麻しんの主な症状

- 発熱(38℃前後の熱が3~4日続き、一時的に解熱した後、再び39~40℃の高熱が3~4日続きます)
- 倦怠感 ●せき ●鼻水 ●めやに ●発疹(しばらく色素沈着をのこすことがあります) など

※気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などの重い合併症を併発することが30%程度あります。

風しんの主な症状

- 発熱 ●発疹
- 耳の後ろや首などのリンパ節のはれなど

※合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、脳炎などが報告されています。

2. 予防接種の効果

麻しんや風しんに対する特効薬はなく、唯一の予防法は予防接種のみです!使用するワクチンとしては、原則「麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)」を使用します。予防接種を受けたお子様のうち、95%以上が免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると、麻しんや風しんの感染を防ぐことができます。

3. 麻しん風しん混合(MR)ワクチンの主な副反応

主な副反応は、発熱(接種した者のうち20%程度)や、発しん(接種した者のうち10%程度)で、これらの症状は、接種後5~14日の間に多くみられます。接種後直後から翌日に過敏症状と考えられる発熱、発しん、掻痒(かゆみ)などがみられることがありますが、これらの症状は通常1~3日で治まります。ときに、接種部位の発赤、はれ、しこり、リンパ節の腫れ等がみられることがありますが、いずれも一過性で通常数日中に消失します。

まれに生じる重い副反応としては、アナフィラキシー(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)、急性血小板減少性紫斑病(紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等)、脳炎及びけいれん等が報告されています。

4. 接種を受けられない方

- ◆明らかに発熱のある方(接種前の体温が37.5℃以上)
- ◆重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ◆ワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーをおこしたことが明らかな方
- ◆明らかに免疫機能に異常のある病気をお持ちの方及び免疫抑制をきたす治療を受けている方
- ◆**女性への注意事項**
妊娠している者又はその可能性がある者は、**予防接種不相当者として接種することができません。出産後又は妊娠していないことが確認された後、適当な時期に接種を受けることができます。**
- ◆その他、医師が不適当な状態だと判断した人

アナフィラキシー:
通常、接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性じんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと

5. 接種前に医師への相談が必要な方

以下に該当する方は、主治医がいる場合には前もって主治医に予防接種を受けてよいかを判断してもらいましょう。(病気の種類や病状によっては、主治医による予防接種実施に関する意見書が必要な場合もあります。)

- ◆心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などの基礎疾患をお持ちの方
- ◆予防接種後2日以内に発熱や発疹・じんましん等のアレルギーと思われる症状がみられた方
- ◆過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ◆過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ◆ワクチンに含まれる成分に対して、アレルギーをおこす恐れのある人

6. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ◆予防接種を受けた後30分間は、急な副反応がおこる場合がありますので、医療機関にて待機しましょう。
- ◆接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ◆接種当日は激しい運動は避けましょう。
- ◆接種後、4週間は副反応に注意しましょう。高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受け、沖縄市役所こども相談・健康課までご連絡ください。
- ◆MRワクチンは注射生ワクチンです。接種後、他の注射生ワクチンを接種するときは、27日以上の間隔をあけます。(4週間後の同じ曜日から接種可能です。)
- ◆**女性の方は、接種後2カ月間は、妊娠を避けることが必要です。**

【お問い合わせ】

沖縄市役所 こども相談・健康課 予防係 098-939-1212(内線2232・2233)

